



学校だより 9月



全国学力・学習状況調査結果について

本年度は、令和3年5月27日（木）に実施しました。

調査の目的

- 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

調査の対象

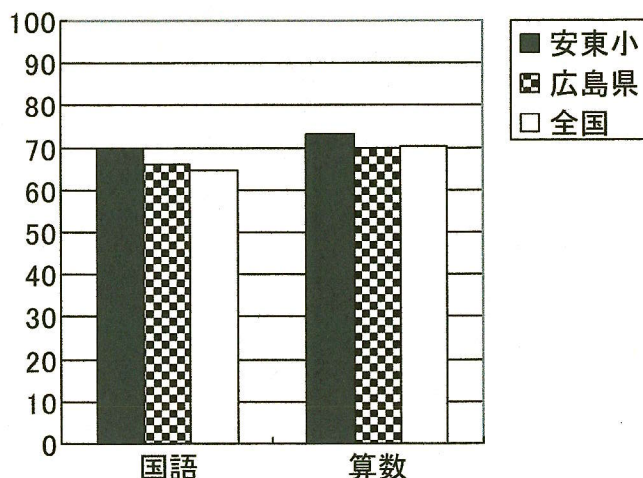
小学校第6学年（中学校第3学年でも実施しています。）

調査内容

- 教科に関する調査 国語・算数
- 生活習慣や学習意欲等に関する質問紙調査

全教科の結果

平均正答率(%)

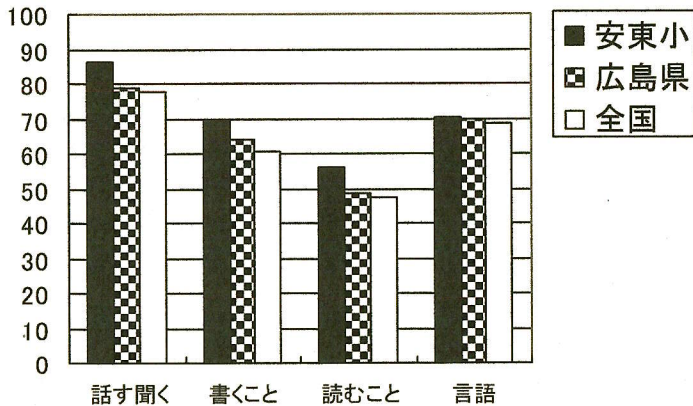


平均正答率 (%)

	国語	算数
安東小	70.0	73.0
広島県	66.0	70.0
全国	64.7	70.2

各教科について分析と改善計画

国語科領域別平均正答率(%)



国語科領域別平均正答率 (%)

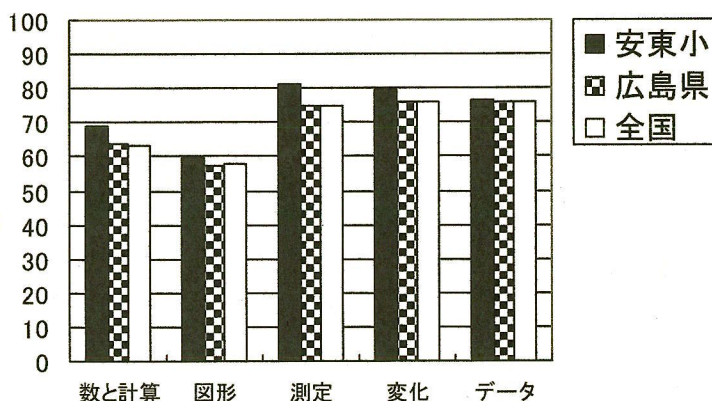
国語	話す聞く	書くこと	読むこと	言語
安東小	86.1	69.9	55.8	70.1
広島県	79.1	64.0	48.4	69.6
全国	77.8	60.7	47.2	68.3

※「話す聞く」は「話すこと・聞くこと」,「言語」は「言葉の特徴や使い方に関する事項」です。

すべての領域において広島県と全国の平均を上回っていました。おおむね国語科の基礎的な学力が定着しています。「話すこと・聞くこと」の領域では、目的に応じて、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題の正答率が高かったです。引き続き、自分の考えを根拠や理由を明確にして2文で話す指導の徹底を全校で取り組むことで、要点を捉えて話し手の意図を聞き取る力と自分の考えを分かりやすく伝える力を伸ばしていきます。「読むこと」では、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして読む問題の正答率が高かったです。「書くこと」では、自分の考えの理由を明確にしてまとめて書く問題の正答率が高かったです。このことから、これまで本校で行ってきた、理由を挙げて自分の考えやまとめを書くなどのノート指導の取り組みが一定の成果を上げていると考えられます。

しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域において、漢字や言葉を文の中で正しく使う問題の正答率が低く、無解答率も多いです。既習漢字の定着や語彙力に課題があります。日頃から既習の漢字を使うように指導するとともに、数多くの文章を読むための読書の機会を確保したり、辞書の活用を増やしたりすることで言葉の理解を確かなものにし、言葉に関する内容の指導を充実させていきます。また、文の中における主語と述語の関係を捉える問題の正答率も低く、日頃から、文章を書く際には、一文ごとに主語と述語の関係を確かめて、主述の関係に気をつける意識が高まるよう、指導を重ねていきます。

算数科領域別平均正答率(%)



算数科領域別平均正答率 (%)

算数	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
安東小	68.9	59.9	81.3	79.3	76.5
広島県	63.6	57.2	75.1	76.2	76.2
全国	63.1	57.9	74.8	75.9	76.0

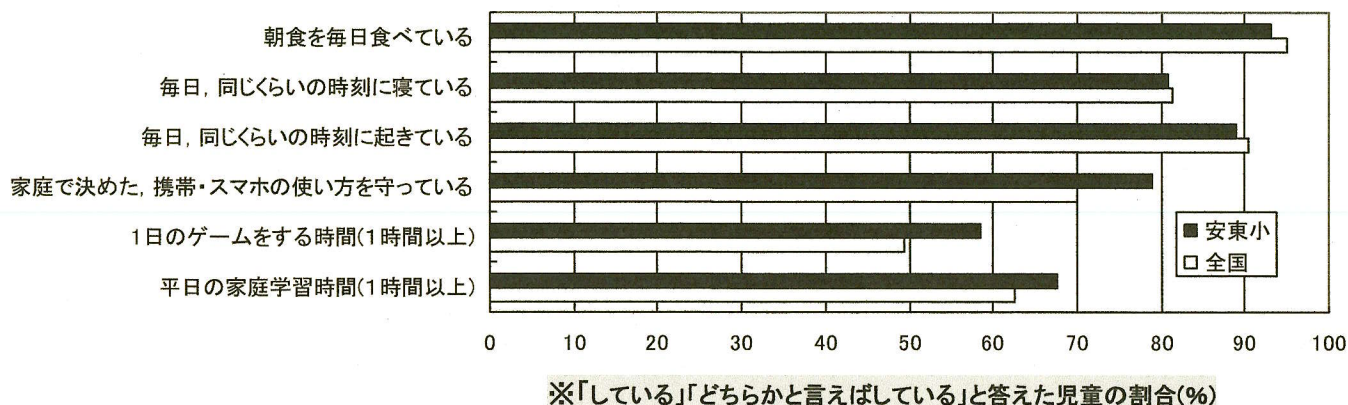
すべての領域において広島県と全国の平均を上回っていました。おおむね算数科の基礎的な学力が定着しています。特に、「測定」では、量の適切な測定や比較方法を問われる問題が、どれも高い正答率でした。しかし、「データの活用」では、棒グラフや帯グラフの読み取りに関する問題の正答率が低く、資料から情報を取り出したり資料どうしを比較したりする力に課題があります。また、「数と計算」の領域では、わり算の式とその計算結果の意味を、実生活の場面に活用する問題の正答率が低い結果となりました。授業において、グラフ資料を読み取る機会を増やしたり、式を実生活の場面に当てはめて文章問題を考える機会を増やしたりするなどして、課題となる学習内容の理解と定着を図っていきます。

生活習慣や学習意欲等に関する調査より【抜粋】

【家庭生活に関すること】（下のグラフ参照）

ご家庭での基本的な生活習慣は、全国平均に近い結果となっています。「家庭で決めた、携帯・スマホの使い方を守っている」(78.8%)や「平日の家庭学習の時間(1時間以上)」(67.7%)の質問は、全国平均を上回る結果ではありますが、全体として十分に高い数値ではありません。また、「1日のゲームをする時間(1時間以上)」は、58.6%で全国平均を上回る結果となり、半数以上の児童が1日1時間以上ゲームを行っている状況です。

中学校では、教科数が増えることにともなって、出される課題が多くなります。また、テストに向けて自分で課題を決めて学習に取り組む姿勢が求められます。学校においても自主学習の課題の出し方を工夫したり、勉強のやり方を交流したりして家庭学習の充実を図っていきます。ご家庭でも、娯楽や SNS などのメディアに関わる時間の節度を持ち、家庭学習の時間を1時間以上確保できるよう、お声掛けをよろしくお願いします。



【学習に関すること】（右のグラフ参照）

学習意欲に関する子どもたちの意識は前向きなものが多く、学習に対して真面目に取り組もうとする姿が見られました。「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」では、肯定的に答えた児童が83.8%おり、日ごろから授業のめあてに向かって地道に努力していることがうかがえます。

国語科においては、「国語の勉強は好きだ」に、肯定的に答えた児童は53.5%でしたが、「国語の勉強は大切だと思う」に、肯定的に答えた児童は95%で、国語科の学習の大切さを理解し、真面目に取り組むことで学習内容を理解していることがうかがえます。学校では、引き続き児童が関心・意欲をもって国語科の学習に取り組めるよう言葉を大切に扱い、子どもたち同士の対話を生かした授業改善を進めていきます。

算数科においては、「算数の勉強は好き」に、肯定的に答えた児童は73.7%でしたが、「算数の勉強は大切だと思う」に、肯定的に答えた児童は95.9%で、国語科同様、算数科の学習の大切さを理解し、真面目に取り組むことで学習内容を理解していることがうかがえます。また、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」に肯定的に答えた児童は95%で、全国や県の平均よりも高い結果でした。今後も、問題の解き方や考え方を記述できるように指導するとともに、あとから見てよく分かるノートづくりができるよう、引き続き指導を重ねていきます。

【自分自身に関すること】（右のグラフ参照）

肯定的に答えた児童の割合が高かったのは、「人の役に立つ人間になりたいと思っている」99%、「友達と協力するのは楽しい」99%、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている」98%、「家庭でよく会話をする」97%でした。人の役に立とうとする思いをもち、協調性をもって豊かにコミュニケーションをとる力は、これからの社会に立つ児童にとって、とても大切なことです。また、そのような力は、ご家庭でよく会話をしていることで育まれていることがうかがえます。

一方で、割合が低かったのが、「新聞を読んでいる(週1～3回以上)」17.2%、「スマホやパソコンを勉強に活用している(1日に30分以上)」18.2%、「今住んでいる地域の行事に参加している」44.4%と知識や視野を広げることに関しては、消極的な面が見られました。今まで身につけてきたことを土台として、さらに自分の世界を広げて力を伸ばしていくために、情報メディアを活用して、幅広く世の中の出来事に関心をもつことが必要です。学校では、インターネットを活用した調べ学習の充実を図るとともに、図書室での新聞の閲覧を推奨し、各教科の学習において新聞記事の活用に努めていきます。

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童の割合(%)

■ 安東小
□ 全国

